

2020年度 傾斜的研究費（全学分）  
社会連携支援（都連携研究支援・社会連携活動支援） 研究報告書

【研究費区分】：社会連携活動支援，

【研究代表者所属】：理学研究科 生命科学専攻

【研究代表者氏名】：黒川 信

【研究代表者氏名フリガナ】：クロカワ マコト

【研究代表者職】：准教授

【研究分担者（所属,氏名,職）】

- ・人文社会学部・谷口 央・教授
- ・健康福祉学部・福士政広・教授
- ・システムデザイン学部・寛 幸次・教授
- ・都市環境学部・沼田真也・教授

【研究課題名】：

**島嶼地域での学外・体験型社会人・シニア教育プログラムの開発研究**

【研究実績の概要】

- 1) 宿泊型の学外・体験型プログラムを各島で開発・実施の計画だったが神津島での講座（5月）は緊急事態宣言のためモニター受講生募集自体を中止。受講生も確定し準備を進めた八丈島および大島での講座（ともに1月）も緊急事態宣言再発令により中止せざるを得なかった。プレミアムカレッジ講座@「東京の『離島』を学ぶ@伊豆大島」（2月）は緊急事態宣言下、10名の受講生に対してリモート方式に切り替え1泊2日のオンラインフィールドワークを実施。皆が「期待以上の満足感が得られた」との感想を寄せた。
- 2) 島民を対象にした公開講座「八丈島民大学講座」（9月、八丈文化協会と共催）を、伊豆大島、式根島、父島などともをオンラインで結んでの島を超えた島民大学講座として開講。2月にも共催する予定であったが、緊急事態宣言により2021年度に延期。

【研究成果の都民への還元あるいは東京都への政策提言】

- ・本研究の成果を背景に、2021年度はプレミアムカレッジにてアディショナル科目「東京の『離島』を学ぶ@八丈島」を開講することが決定している。
- ・大学レベルの学びを求める社会人、シニア教育をはじめリカレント教育を行なう上で東京の洋上に広がる島々は、大変に魅力的でユニークなフィールドである。地域社会との密接な連携基盤に基づいて実施する宿泊型講座は、地域の魅力を発掘、再発見し、単なる「観光」とは異なる形で発信するものであり、公立大学としての存在意義を高めるとともに地域活性化の一翼を担うと考えられる。
- ・「大学」が存在しない島嶼地域において、島民対象の大学講座は八丈島のみならず、伊豆諸島、小笠原諸島で多くのニーズがあることが分かった。島を超えてオンラインで結ぶ大学講座を継続、維持していくことは東京都の公立大学の役割として重要である。

**【東京都以外への社会への提言や活動の実績】**

- ・ 該当無し

**【外部研究費等への応募状況】**

- ・ 該当無し

**【科学研究費補助金や国等の提案公募型研究費，企業からの受託研究費・共同研究費の獲得状況】**

- ・ 該当無し

**【出版したことによる波及効果】**

- ・ 該当無し